

1 学習テーマ

私たちの平等観を考えてみませんか？

2 学習目標

- 平等とはその人の立場や状況によって、感じ方やとらえ方が異なるということを理解する。
- 人や家族の背景は多様であることを知りつつ、学校や地域においては「同じ」＝「平等」と認識しがちであることを理解する。
- 多様性を認めた上で、改めて地域における平等を考え、それぞれの立場を尊重した課題の解決策を考える態度を身につける。

3 本教材の特色

- 私たちの平等観を客観的に考えることを目的としながら、題材には「強い部活動を支援するスポーツ後援会費」や「自治会加入の障害となる高額負担金」を用いて、身近な問題で誰もが話に参加できるよう工夫している。そして、最終的にどのように折り合いをつけるかという解決策を考えることで、他者の視点や状況に配慮できる姿勢を身につけることが可能となる。

4 準備物及び会場図

<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題シートと記述シート（一人各1枚） ・記録者用の用紙（A4用紙を各グループに1枚） ・振り返りシート（一人1枚） ・アイスブレイク用紙（A5用紙一人1枚） 	<p>会場図（各テーブル4～5名）×5テーブル</p>
--	------------------------------------

5 実施にあたっての留意点

- 開始時に、三つの約束を確認する。（平等な発言・肯定的に聴く姿勢・守秘）
- 教材や状況に応じたアイスブレイクを行うなど、話しやすい雰囲気づくりを大切にする。

6 学習展開（60分）

流れ	時間	学習活動	留意点・評価
導入	10分	<p>【アイスブレイク：「アインシュタインの天国と地獄」】</p> <p>○A5用紙を一人1枚ずつ配布する。</p> <p>①A5用紙に「折り目」を2本の斜めの「山折り」と1本の横の「谷折り」でつけてもらう。それを折って、「家」のような形にする。それを縦軸で半分に折り、重ねる。紙飛行機の羽根を作るように折る。できたものを真半分にはさみで切る（手で破る）と、9ピースの紙切れになる。</p> <p>②9ピースを広げると、大きな十字架がすぐに目に入る。それを「天国」とする。残りの8ピースで「地獄」をつくる。なかなかわからないので、ヒントを出す。まず「アルファベットをつくる」、次に「地獄は英語でHELL」、そうするとだんだんできてくる。隣近所で確認し合う。</p> <p>③アインシュタインは天才だから、日本語も想定していた。「じごく」とひらがなで再現しよう。それだけでは救われないので、最後は「愛（LOVE）」でハッピーエンド。</p> <p>○簡単な自己紹介をしてもらう。（4人で1分程度）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・説明が伝わるよう、段取りの確認はしっかりと。 ・「できない」と自信を失わせないように、タイミングよくヒントを出す。 ・最後はテーマ（見方を変えれば…）をさりげなく伝えておく。

今日のテーマ：「なるほど、見方を変えればこうも考えられるのか！」を感じてみましょう。			
展 開	40分	<p>【趣旨説明および進行説明】（5分） ○私たちは「平等」を何となく「このようなものだ」と理解しているが、実は「平等」には多くの見方が潜んでいるのではないだろうか。今回は二つの状況設定から、私たちの「平等観」と事態を進展させるための「折り合い」について考えてみる。よくありがちな状況設定なので、自分の経験と照らし合わせながら考えよう。</p> <p>○状況設定①と②を、確認しながらゆっくり読む。さまざまなケースが重ね合わせられるよう、曖昧に書いてあるので、「皆さんで解釈してもらって結構です」と伝える。</p> <p>【個人ワーク】（5分） ○課題シートを見ながら思い浮かんだことを、記述シートに箇条書き（メモ程度）で書いてもらう。「正解はない」のでいろんな立場の人を想像しながら書くとよい。</p> <p>【グループワーク】（10分×2） ○状況設定①および②についての話し合いを、それぞれ10分ずつ行ってもらう。便宜上なので、どちらか一つに20分を使っても、話し合いには意味があるので構わないことにする。</p> <p>○記録用のA4用紙は渡しておくが、「後で発表してもらうので、記録が必要な場合は使ってください」程度のアナウンスしておく。</p> <p>【発表と共有】（10分） ○それぞれのグループに2分程度でまとめて発表してもらう。ファシリテーターは「うん、そうですね」「なるほど」「面白い考え方ですね」など簡単な感想で次のグループに渡す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象によっては一つの話だけ取り上げることも可能である。 ・まずは「自分はこう思う」から、次に「こう思う人もいるだろう」と想像することが大切である。 ・「いい」「悪い」を決める場ではないので、お互いの話を理解するように努めることが大切である。 ・長くなりがちなので、①と②のどちらか一方のみの発表でもよい。
振り返り	8分	<p>（振り返りシートを配付する。）</p> <p>○振り返りシートにきちんと記録を残すというよりも、他グループの発表を聞いた感想や、グループの他の人と振り返りながら、気付いたことや感じたことをメモするぐらいでよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立場の違いを受け止めることによって、折り合うことも見つけられるはずである。そんな気があればよい。
まとめ	2分	<p>○ファシリテーター自身が今日の学習や参加者の声、気付きから感じたことを紹介しながら簡潔にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表で出た気付きを一つか二つ紹介してまとめるとよい。

私たちの平等観を考えてみませんか？

状 況 設 定

状況設定①

<学校編>

私たちの住んでいる地区の公立中学校はいくつかの部活動が強く、ここ10年ほど県大会で何度も優勝しています。中国大会でもよい成績を収めるほどの実力があります。しかし、練習試合や大会出場等で遠征費がかさみ、個々の家計で支えるには限界がありそうです。そうすると、実力があっても経済的にその部活動には入れなくなり、部活動そのものの衰退にもつながりかねません。

そこで、中学校で毎月集めているスポーツ後援会費（月額200円／生徒一人）を2.5倍（月額500円）にして、優秀な成績を収めている部活動に対して遠征費等の援助をしようという提案が出されました。このことは、みんなから広く集めたお金を、強い部活動に所属する生徒に厚く配分することになります。

さて、これは生徒みんなにとって「平等」と呼べる徴収の仕方なのでしょうか？もしそうでないとなれば、優れた生徒の負担を軽減するためにどのような代替案があるのでしょうか。いろいろな角度から考えてみましょう。

状況設定②

<自治会編>

町の方針（市街地調整区域の解除）もあって、農地であった近所に宅地（団地）が造成されました。新しい住人も住み始め、近所づきあいやゴミの収集、広報紙の配付など、自治会に入ってもらった方がいいだろうと思い始めました。

そこで、連合自治会の役員の方に自治会加入について相談すると、「この地域にはみんなで建てた集会所があるので、連合自治会に入るにはまず30万円の負担金（集会所建設のために各戸で負担した額）を各戸に払ってもらうこととなりますなあ。」という説明がありました。連合自治会の言い分は「集会所を平等に使うため」とか「地域に対する責任を果たすため」には応分の負担が必要になるということなのです。

新しい住民には小さな子供もいて、自治会に入らないことによって地域情報の入手や地域行事への参加等ができなくなるのも考えものです。さて、この負担金は「住民間の平等」や「地域への責任」のために必要なのでしょうか。それとも、両者がわかり合える（折り合いのつく）いい方法があるのでしょうか。

私たちの平等観を考えてみませんか？

個人ワークとグループワーク

状況設定①

＜あなたの意見を思いついた順に箇条書きにしましょう。＞

＜グループで出た意見を書きましょう。＞

状況設定②

＜あなたの意見を思いついた順に箇条書きにしましょう。＞

＜グループで出た意見を書きましょう。＞

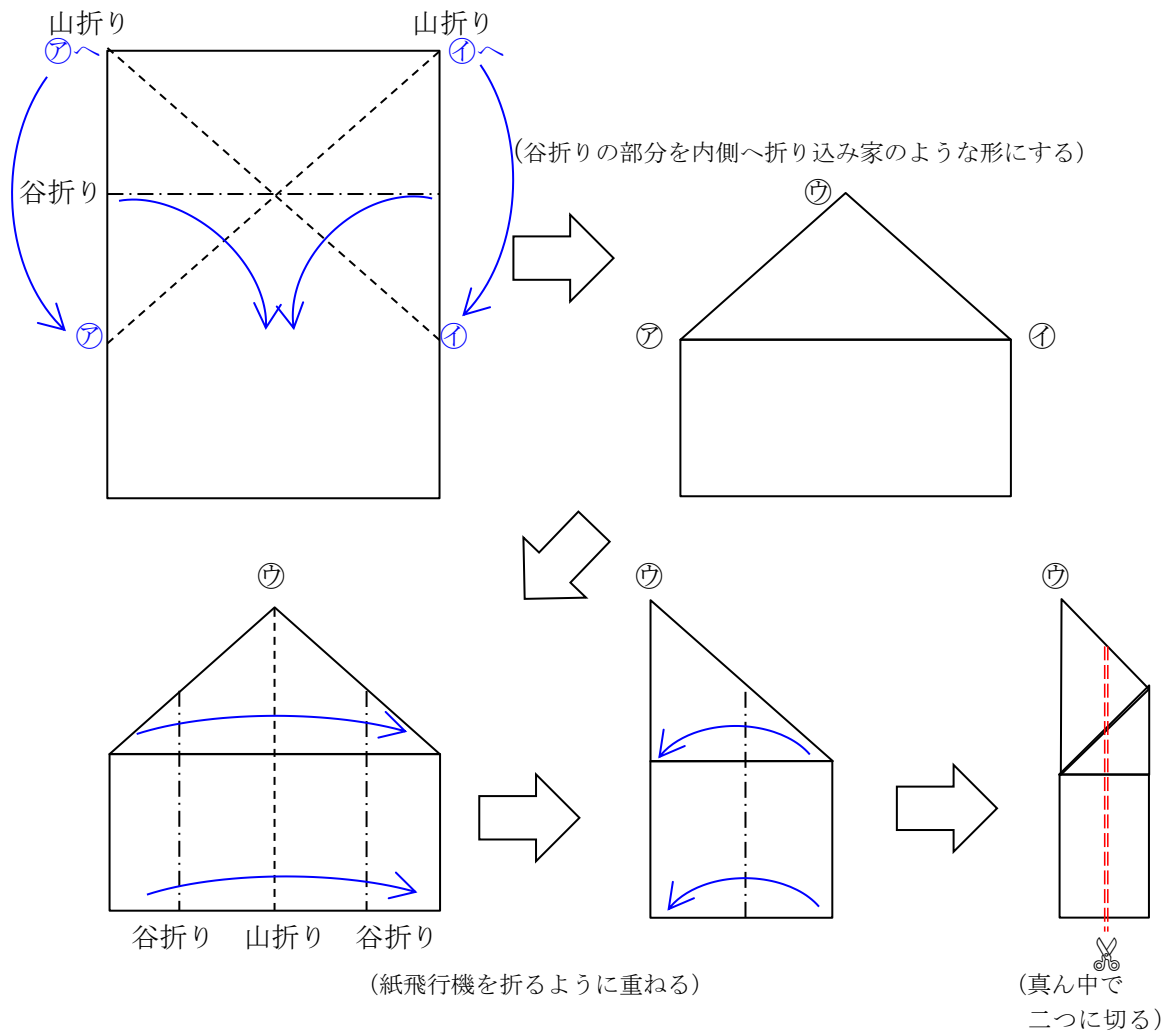
振り返りシート

今日参加してどうでしたか。

今日の話合いで、私が気づいたことや感じたことは、

自分の生活や生き方にいかしてみようと思ったことは、

アインシュタインの「天国と地獄」 折り方と切り方



(広げると…)

